

地域デザインフォーラム・ブックレット No. 12

# 新しい市民大学をめざして

大東文化大学・板橋区  
地域デザインフォーラム

## 地域デザインフォーラム・ブックレット

- No.1 コミュニティビジネスが地域を変える
- No.2 板橋区民のコミュニティ意識調査
- No.3 高齢者の社会参加の促進
- No.4 産学公連携による学生ベンチャー支援
- No.5 イノベティブな板橋をつくる—現代産業集積の研究—
- No.6 コミュニティビジネスと地域の活性化
- No.7 板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資源」
- No.8 高齢者の社会参加の促進—総集編—
- No.9 政策評価制度
- No.10 産業振興ビジョン策定に向けて
- No.11 住民参加
- No.12 新しい市民大学をめざして

# 地域デザインフォーラム・ ブックレットについて

大東文化大学と板橋区は2000年5月から地域連携研究「地域デザインフォーラム」を始めました。これは、大学と行政が連携して、地域の政策課題を共同研究するというものです。

平成15年度までの4年間は、「まちづくりとコミュニティ」、「高齢者福祉」、「地域産業の活性化」の3つを課題として研究し、これまでにブックレット No. 1 から No. 8 までの8冊の研究結果報告書などを発行してきました。

平成16年度からは研究課題を新しく「政策評価制度」、「産業振興ビジョン」、「住民参加の促進」、「コミュニティカレッジ」の4課題とし、2年間をメドに研究結果をとりまとめることとしております。

今回発行する No. 9 から No. 12 の4冊のブックレットは新しい課題への取り組みの中間報告ですが、地域の課題解決に関心を持つ方々や、私たちの活動に興味を持たれる方々などに利活用していただければ幸いです。

なお、地域デザインフォーラムの活動について詳細をお知りになりたい方は大東文化大学のホームページ <http://www.daito.ac.jp/gakubu/hougaku/itabashi.html> でご覧いただけます。

2005年3月  
地域デザインフォーラム研究員一同

# 目次

はじめに	1
第1章 生涯学習時代における試み	3
1. 自治体の生涯学習システム	3
2. 板橋区における生涯学習の取り組みの変遷と現状	23
3. 他の自治体事例	40
第2章 板橋コミュニティ・カレッジの フレームワーク構築に向けて	54
1. コミュニティ・カレッジ先進国の現状と教育システム	54
2. わが国におけるコミュニティ・カレッジへの動向	68
3. コミュニティ・カレッジ設立収支予想 シミュレーションモデル	90
結びにかえて	94
執筆者一覧	100

## はじめに

第4分科会（コミュニティ・カレッジ）では、昨年度、『板橋区と大東文化大学の地域に開かれた「知の資源」』というタイトルで、板橋区における生涯学習支援サービスと大東文化大学におけるエクステンションセンターや公開講座、講演会・シンポジウムなどのデータを整理、提供した。

そのときの問題意識は、板橋区と大東文化大学それぞれの人的資源、行政サービス、教育資源、知の資源がどんなシステムで地域社会に提供されているかを明らかにすることによって、生涯学習時代における板橋区と大東文化大学の課題と役割を模索することだった。

その方向のひとつは、両者の協働とネットワークングによる地域社会の活性化だった。今回の中間報告は、さらにコミュニティ・カレッジを射程に置いている。アメリカでは、大学は若者だけの世界ではなく、多様な目的意識を持った社会人の教育需要に応えるものとなっている。

とりわけ、コミュニティ・カレッジやカレッジと呼ばれている短期大学は、普通教育に加えて職業教育の多彩なプログラムを用意していて、幅広い社会の要請に応えている。パートタイム学生の比率も高く、卒業年数も柔軟で、何年かけてもいいし、四年制大学へ転入もできる。

わが国でも短期大学を社会人の再教育に対応するコミュニティ・カレッジとして捉える考え方が出てきており、専門能力養成や資格取得を前面に出した株式会社立大学の登場を見るに至っている。

このように、大学と社会の関係は明らかに変容しつつある。そうした全体状況の中で各種のメニューとシステムで生涯学習社会に対応してきた行政サイドも新たな役割と課題を抱え込むことになると思われる。今回の中間報告ではそうした視点から、各地における生涯学習時代への多様な試み、先進例としてアメリカの状

況、法的制度面、経営面を含んだわが国の大学・短大の動向と課題を明らかにしようとした。